

「命を守る防災教育～地域と連携した地震津波防災への取組～」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 高知市立大津小学校

I 学校における背景、問題意識

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が失われた。

高知県では、これまで近い将来に南海地震が少なくない確率で発生すると言われていたが、東日本大震災後、想定規模、時期ともに猶予の持てない状況であることが明確となり、学校における防災教育は喫緊の課題となっている。災害を恐れるだけでなく、災害に立ち向かっていく「防災力」を身に付けさせ、災害に対し実践力のある児童を、学校と地域が一体となって育成することの重要性が改めて浮き彫りとなった。

大津地域の住民は、平成 10 年の「高知豪雨」で地域全体が水没するという被害を受けた経験から、災害に強い地域にしたいという強い願いを持っている。地域と共に学びを進め、地域全体で災害に立ち向かっていく実践力を育てたい。

II 取組のポイント

「防災力」を育成するための指導法の開発と実践的研究

- 地震に関する知識理解を深めるための防災学習（教科・領域等の連携）
- 様々な場面を想定した避難訓練の実施と防災マニュアルの見直し
- 地域と連携した防災行事への参加によるボランティア活動の体験

III 取組の概要

1 行動目標の設定


- 低学年
教員や保護者等の指示に従う等、適切な行動ができるようにする。
- 中学年
災害の時に起こる様々な危険について知


り、自ら安全な行動ができるようにする。

○高学年

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく他の人々の安全にも気配りができるようにする。

2 年間の取組

| | 実施事項 |
|----|---|
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練①（地震・津波想定） 地震・津波を想定 （大津中学校と近隣マンションへの避難訓練） |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケートの実施 3年生以上（地震に関する意識調査） |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習授業公開 4年生「安全な暮らし」 授業者：教諭 西村 一輝 ・避難訓練②（地震想定） 各教室机下に避難（児童・教職員） |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県立防災センター視察 地域・児童・保護者の希望者、教職員による視察研修  <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ避難訓練 （地震・津波想定避難ビルへ） 参加者：90名 |

| | |
|-----|---|
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練③（地震・津波想定） 岩崎山への避難訓練（児童・教職員）  <ul style="list-style-type: none"> 防災給食の実施 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 防災学習授業公開 4年生「避難行動」 授業者：教諭 西村 一輝 アドバイザーによる指導・助言 高知県立大学 大村 誠 教授 参加者：50名 避難訓練④（地震・津波想定） 休み時間 各自で校舎3階へ |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> 高知県実践的防災教育推進事業 公開授業・防災訓練等 参加者：地域住民100名、教育関係者70名、その他10名 計180名 午前：防災学習参観授業（全学級） 子ども防災訓練（掃除縦割り班） 昼食：大津地域防災会・自衛隊による 炊き出し訓練（児童は防災給食） 午後：大津地域合同防災学習会 <ul style="list-style-type: none"> ○大津小6年生の学習発表 「地震発生のメカニズム」 「ハザードマップ」 ○現況説明 元高知市消防局長 山中 次男 氏 大津防災会長 濱田 敏裕 氏 ○講評 高知県立大学 大村 誠 教授 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練⑤（地震想定） 終業式における避難訓練 |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練⑥（地震・火災想定） 防災教育校内研修 講師：高知県立大学 大村 誠 教授 火災発生想定避難訓練 （児童・教職員） |

3 取組の詳細

(1) 防災学習会

（徳島県立防災センター視察）

日時：平成24年8月2日（木）
視察地：徳島県立防災センター
目的：地域とともに先進地の視察を行い
命を守るための防災について学ぶ
参加者：地域の方（27名）
大津小中教職員（20名）
児童と保護者（17名）計64名
交通手段：貸切バス2台



児童の感想より（一部抜粋）

防災センターの施設の中では、地震体験や消火の仕方、煙の中を避難したり、暴風の体験をしたり様々なことを体験することができました。私たちはこのような体験を通して、本当の地震や津波の時には、火事や火事から発生した煙やガス、その他にも10mの津波や建物が崩れるなど、大変なことになることが改めてわかりました。家のテレビや本棚や家具などが動いて凶器になるということも身をもってわかりました。頭の中では、地震の時に家具が倒れたり動いたりしないように防災対策をしたり、防災グッズを備えたりしないといけないと思いながら、なかなか実現できずに日々を過ごしていました。実際に体験をして、日頃からの心がけが大事だと思い、家に帰って買ったままだった防災グッズを見直したり、家族で防災の話をしたりと、とてもよい機会になり、防災意識も高まりました。

(2) 避難訓練（地震・津波想定）

日時：平成24年5月11日（金）4校時

避難場所:近隣マンション(1～3年生)

大津中学校(4～6年生)

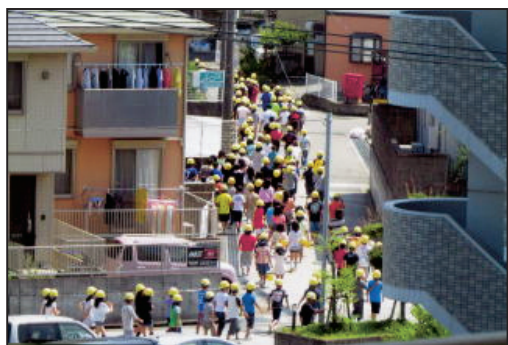
目的:それぞれの避難経路と避難場所を確認し、自分の命は自分で守ることができるようにする。

本校の校舎は2～3階建てで、平成24年度に耐震化は完了したものの、「4階建てか3階建ての屋上以上」という高知市の津波避難ビルの要件は満たしておらず、南海トラフ地震発生時には、約400m離れた大津中学校へ避難する必要がある。

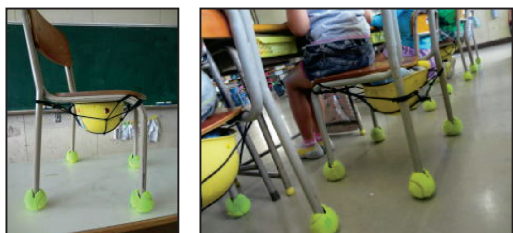


より近くで、低学年の児童が安全に避難することができる場所を探していたところ、学校から約200mのところにある14階建てのマンションを所有する地域の方が協力してくださり、災害時にはマンションの通路や空いている部屋を使わせてもらえることとなった。

早速、1～3年生児童がマンションへ避難してみた。事故防止のために迂回したものの、8分程で全員が避難することができ、低学年の児童も5分以内に安全に避難できる目途が立った。



また、避難訓練時に児童がかぶっているヘルメットは、自転車の防犯ネットを利用し、すぐに取り出せるように児童の椅子の下にセットすることとした。



(3) 公開授業・防災訓練等

①防災学習参観授業(全学級)



【2年生(学級活動)「危険の予測」】



【5年生(道徳)「いのちについて考えよう」】

②子ども防災訓練(掃除縦割り班)

子ども自主防災

<児童が主体となって行う防災訓練>

6年生全員が各訓練場所の責任者となり、設置及び運営を行う。1年生から5年生までの掃除の縦割り班で編成されたグループで、各訓練場所を体験しながら巡っていく。5年生は各班のリーダーとなる。

| 訓練 | 内容等 |
|----------|-----------------------|
| スモーク体験 | 地震後の煙の出ている部屋からの脱出 |
| 津波とは | 津波のメカニズムと備え及び避難について |
| 防災グッズ | 学校や家庭に備えておきたい防災グッズの説明 |
| バケツリレー体験 | 火災が発生した時を想定しての消火訓練 |
| 南海地震とは | 地震のメカニズム、歴史、今後の備え等を説明 |
| 消火訓練 | 消火器を使ったの実技 |



【消火訓練】

【バケツリレー体験】



③防災給食（学校）

児童の災害時の食に対する意識を高めるための取組として「防災給食」を実施した。防災給食は、主に備蓄食品などを使用して調理した。児童はできあがった給食のご飯を、ビニール袋を使っておにぎりにして食べるなど、災害時の食事を体験した。



④大津地域防災会・自衛隊による炊き出し訓練

防災参観日の時に、大津地域の防災会と自衛隊の方々の協力によるカレーライスの炊き出し訓練を実施し、参会者に食べていただいた。



IV 成果と今後の課題

1 取組の成果

- ・教職員、保護者及び地域住民の防災意識が高まった。
- ・従来の防災マニュアルを見直し、現状に適応したマニュアルを作成した。
- ・児童が防災学習に意欲的に取り組むようになった。
- ・取組を通して地域の連携が強化され、災害時に必要な関係が構築できつつある。
- ・公開授業や発表会を通して、外部に取組を発信することができた。
- ・様々な想定による地震津波の避難訓練を行い、児童の行動力を身に付ける指導が実践できた。
- ・「子ども防災訓練」により、避難行動や救急法等、児童の主体性を生み出す指導への工夫ができた。
- ・防災教育の全体計画を作成することにより、防災教育の位置付けが明確になった。

2 今後の課題

- ・避難訓練は継続することが重要である。今後も、年間6回程度の避難訓練を行うことが定着の鍵になると思われる。
- ・防災マニュアルは、変化する状況に適応できるように随時、見直しを行いたい。
- ・児童が意欲的に防災学習に取り組めるようにするためには、家庭の防災意識向上が欠かせない。学習内容を通信等で詳細に伝える等、さらに家庭との連携を密にしたい。
- ・災害発生時には地域の連携が重要になると思われる。今年度の連携を維持しつつ、さらによりよい関係を構築したい。
- ・公開授業や発表会でいただいたご意見を参考にし、新たな防災教育計画を作成したい。
- ・「子ども防災訓練」は、内容を検証し、現状により適応した内容で継続したい。
- ・防災教育の全体計画がないままにスタートしたため、実施にあたって時間的に無理が生じた面があった。来年度からは全体計画に沿った方法で実施したい。